

発行:余市協会病院

発行日:平成29年2月1日

発行人:吉田 秀明

編集人:広報委員会

お問い合わせ:0135-23-3126

はつらPlus



「新年のご挨拶」

看護部長 森本 千恵子

明けましておめでとうございます。平成29年の幕開けに際し、ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

当余市協会病院に赴任しましてから、2年が過ぎましたが、近郊町村には、複数の診療科を持ち、救急車を年に1000件受け入れているような病院は、他には見当たりません。したがって当院の去就は、地域の医療に直結する大きな問題でもありますので、職員一人一人が、その自覚を強く持って、日常の業務にあたっております。しかしながら、忙しさや、まだまだ教育が十分には出来ていない事もあり、お叱りを受けることも度々であります。この場を借りまして、賜りました貴重なご意見の数々に、心から御礼申し上げます。



さて昨年は、病院機能評価という厚労省外郭団体の審査に、職員一丸となって取り組み、見事に一回での合格という快挙を成し遂げ、認定証をいただいたところです。今年も引き続き職場環境や療養環境の改善、安全な医療・看護の提供に努めてまいりたいと思っております。

そういった年頭に当たり、この言葉を、皆さまに送りたいと思っております。

「I have a dream !」

ピコ太郎ではありません(苦笑)キング牧師の有名な演説の一節で、ご存知の方も多いと思いますが、職員一人一人の夢が、地域の皆様の願いが、一緒に実現できるように、来院する地域の住民の皆様の夢を、心から傾聴し、ともに歩んでいける、そんな関係性を築いてゆきたいと願ってやみません。

演説にはこの後、こう語られています。

「We cannot walk alone.」(我々は一人では歩いて行けない)

職員の皆様にとっても、充実した良い一年となりますように。



救急件数 (12月)

外来受診303件 うち入院65件
救急車来院88件 うち入院45件

研修医リレーコラム89 「誤嚥性肺炎とその予防」

こんにちは。斗南病院研修医の船越基裕と申します。11月の1か月間研修をさせていただきました。今回のテーマは誤嚥性肺炎とその予防ということで記事にさせていただきます。

・誤嚥(ごえん)とは？

⇒食事や飲料、唾液などが食道に流れず、気管の方へ送り込まれてしまうこと

誤嚥によって細菌が肺に感染し生じる肺炎を誤嚥性肺炎と呼びます。肺炎は2015年の日本の全死亡原因の中では悪性新生物(がん)、心疾患に次ぎ第3位であり、全体の9.4%を占めております。その多くは高齢者であり、市中肺炎の6割、院内肺炎の9割近くが誤嚥性肺炎であると考えられています。ですから誤嚥を予防することは非常に重要であります。以下に具体的に予防策を紹介させていただきます。

・口腔ケア

誤嚥性肺炎を引き起こす細菌はさまざまですが、通常の肺炎の原因となる菌種に加え、口腔内の常在菌も発症に関与します。そのため普段から口腔内を清潔にし、常在菌を最小限にすることが非常に重要です。一日に何度も歯磨きをするのは難しいという方でも、最近では口腔ケア用のうがい薬も市販されていますので始めてみる価値はあると思います。

・会話、発声

嚥下の際に使用される筋肉と声を出す際に使用される筋肉は一部同じものであり、周囲の方たちとお話をし、コミュニケーションを頻繁にとるだけでも誤嚥の予防になります。歌が好きな方はカラオケなども良いかもしれませんね。脳の刺激にもなり、認知症の予防にもなるでしょう。

・食事の際の体位

横になった状態で水分を摂取したり、食べることは避けましょう。座って食べるよりも誤嚥を起こしやすくなります。さらに食事の後ですが、特に高齢者の方たちは胃から食道へ食物残渣が逆流しやすく、さらには逆流してきたものが一部気管へと流れ込んでしまうこともありますから、食後しばらくの間は横にならずに状態を起こしていることをお勧めします。

以上簡単ではありますが、誤嚥の予防について書かせていただきました。比較的簡単にできることですので、是非試してみてください。

斗南病院研修医 船越 基裕

節分 豆まき



鬼は外。福は内。



新春書き初め
恒例の職員による書き初めをしました！今年も力作揃いです。外来患者控え室に展示しておりますのでご覧になってみて下さい。

日時:平成29年2月3日(金)17時30分より

場所:余市協会病院待合ホール

※どなたでも参加できます。是非おこください。

facebook "いいね!"フォローよろしくお願いたします!